

(56)プラスチックのリサイクル

プラスチックのリサイクルが、最近、問題にされるようになってきた。プラスチック問題の背景には、途上国の生活水準が上昇したことによるプラスチック利用が増えてきた、途上国・新興国ではプラスチックのリサイクル、あるいは、廃棄物の適正な処理が進まない、そして、先進国の廃プラスチックが途上国に輸出され、適正な処理ができないなどの要因がある。また、廃プラスチックが、海洋に流失し、魚の体内に蓄積することが調査されるようになってきたことも大きな要因であろう。

わが国の場合、容器包装リサイクル法などによって、プラスチック容器は、マテリアル(プラスチックの再生)、ケミカル、サーマルなどの形でリサイクルされ、原則として、プラスチックの自然界への不法投棄は抑止されている。容リ法の一つの課題は、自治体によって収集される廃プラスチックが、海外に販売されるケースであろう。

もう一つの問題は、事業者が集める廃プラスチックが、十分に管理された方法で処理・処分されているかということである。今回の廃プラ問題は、喫茶店等から出るカップやストロー等が自然界に投棄されるというところから出てきた。特に、観光地で販売される飲料用の容器やストローは、ライフスタイルの変化というのか、持ち帰りが多く、店内で消費され、店内で回収される比率は少ないのかもしれない。そこで、自然界で分解できるストローや容器などの開発されるようになった。しかし、事業者が排出する廃プラは、一部は一般廃棄物として、他は産業廃棄物として処理されているので、そこでの適正な処理を促すことが重要だ。